第 2016-13 号

恵みと真理のニュース

2016 年 3 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様と聖書の御言葉に対する不信と疑いがあった私が神様を信じ従順して礼拝する福ある人生に変わりました

私は偶像崇拝する家庭で生まれて教会は幼いころ2回くらい友達と一緒に行きました。青年の頃今の旦那に出会って交際しながら姑から伝道され恵と真理教会に通い始めました。はじめは礼拝するのが慣れなくて牧師の説教も理解出来なくて教会に行くのも楽しくなかったです。毎週教会に来ると話す姑にはいと言って、主日も働くという言い訳をしてデートを楽しんでました。結婚した後も職場生活で忙しいと言い教会を上の空で通い聖書もざっと読んだ日が多かったです。
そうするうちに婚家の近くに引越しをするようになって、姑は区域の礼拝も捧げるように勧めました。信仰がなかった私は嫌でしたが姑の話だったので仕方なく従って礼拝に参席しました。そして、区域礼拝で信仰が良くて親切な首区域長に出会いました。私は区域礼拝を行かないように言い訳をしましたが、そんな私を待ってくださって信仰が生長するように礼拝を捧げるように祈ってくださいました。
そのように1年間の時間が過ぎて切に願っていた妊娠するように神様が福を与えてくださいました。しかし、その喜びも感じようもなく妊娠四ヶ月めに流産しました。私は悲しみに落ちて神様を恨んで信仰がない自分を自責して複雑な心で大変な時間を過ごしました。その事があった後、悟りました。全てが自分のせいでした。福音の内容と救いの意味や人が生きる理由と目的についてはじめて深く考えました。礼拝から心を尽くして捧げるように決心しました。そして、実践しました。自分の無能力と弱いのを悟って低くなり壊れた心になり謙遜な態度で御言葉を聴き神様の助けと励ましを願い祈りました。それから1年が経ってまた妊娠するようになりました。今回は無事に出産できました。
赤ちゃんが生まれて４ヵ月になる時から異常がありました。発達が遅くておかしい行動をしたので病院に行きました。検査結果は脳神経のほうに問題があってこれから正常的な成長と生活が難しいと言われました。また、目の前が見えなくなり絶望的でした。旦那の慰めも助けにならない状況で神様だけ委ねました。以前とは違ってまだ弱いですが信仰を持つようになったので神様が下さる力で起きることが出来ました。息子の将来は主に委ねて神様の奇跡的な治療を望んで祈りました。姑が私よりもっとお祈りました。教区長と首区域長みんな同じ心で私と息子のため祈ってくださいました。 神様に祈りながら７，８ヵ月治療を受けましたが、神様は祈りに答えてくださり驚くな治療の恵を与えてくださいました。息子が完治されこれから正常的な生活をすることが出来ると医者から言われました。主治医がうちの子のように早くよくなって正常的に回復するのはなかなかみれないですが、この子は本当に福を受けたと言われました。“ハレルヤ！神様感謝します。”その話を聞く瞬間私の口から全能なる神様に感謝する賛美を捧げました。嬉限りでした。
その後からは信仰が従順する信仰で行なう信仰で育ちました。心は願いますが体と弱い信仰でたまには揺れたり疎かに礼拝をしました。その時ことに神様は御言葉の権能と愛の鞭で啓作して哀れんでくださり、愛が溢れる神様を感じるようにしてくださいました。信仰と従順の生活をするように導いてくださいました。神様が私の祈りに必ず答えて下さいました。
今も驚くな神様の奇跡を体験しています。子宮に問題があって手術を受け妊娠が出来ない診断を受けましたが、そんれいにみ関わらず手術もしなくて妊娠して今も守ってくださり感謝する心で出産を待っています。
私の人生を振り返ってみると聖書の御言葉の不従順と疑いがたくさんあった人生から神様を信じて従順して心を尽くして捧げています。自分がこのようになったのが神様がなさる最高の奇跡だと思います。救ってくださり主の中で本当に福ある人生になるように導いてくださった神様に栄光捧げます。神様、真の感謝を捧げます。

［信仰コラム］

キリストの中での変化

＂ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる...＂（コリントの信徒への手紙一１５：５１、５２）

人の魂に起る変化を指して聖書では＇新たな被造物＇になることだと記録されています。イエス様は＇生まれ変わる＇ことだと言われました。イエスキリストを信じるとイエスキリストの中にいる者になりイエスキリストの中で経験する変化は生まれ変り新たな被造物になります。このような変化は魂に起る変化で存在的な変化であり本質上の変化です。神様が送りなさった独り子であるイエスキリストを信じる者にこのように素晴らしい変化が起ります。そして、このような変化を受けた人には伴う変化があります。
第一、身分の変化です。この世でどんな身分で生活するにかかわりなく見事な身分上昇をすることができる機会が全ての人々に与えられています。その条件は苦しくて難しいことではありません。ただ、イエスキリストを信じて迎接さえすればいいです。そうすると罪人が義人になります。サタンの子が神様の子になり、地獄の子が天国市民になります。これより驚くべきな身分変化はあり得ないです。このような身分の変化はイエスキリストを信じる全ての人に与えられる神様の恵みです。
第二、人生観の変化です。生死観が変化され生きる理由が明らかになります。神様に仕えるために生きていき全てのことを神様の光栄のためにしますし、神様を喜ばせるために行います。死は存在の消滅ではなく肉体と魂の分離でありこの世を絶ち天国に入ることであることを分かります。そして、宇宙観が変化されます。広闊な宇宙、誰も数えきれない星、一定な軌道を正確に運行する天体、この全てのことが神様の光栄と腕前を表せることだと悟るようになります。また、歴史観も変化されます。歴史は神様の主権と摂理の中で進行されて終末に向いて行っており、人類の歴史は罪人を救う神様の救いの歴史であることを分かります。また、価値観が変化されます。数多くの人がお金、地位、学位、名声、快楽を求め心を煩いながら自分が立てた計画と目標を叶えるために手段と方法を選びません。しかし、生まれ変わる変化を受けた人には神様を礼拝して福音を述べ伝え、キリストの愛によって弱い人を助けることより価値のあることはありません。神様の善良で、神様に喜ばれ、かつ完全な思いに従って行うため全てのことを道具に扱います。
第三、考え方と言語習性の変化です。物事に最善を尽くして努力し結果は神様に任せます。なので、全てのことを肯定的に解釈し楽観的な考えをするようになります。神様を頼みとし、主のお言葉通りに生きていくと神様が摂理なさい最終的な有益と善を叶えてくださることを信じるからです。また、言語習性が変わります。醜くて破壊的な言葉を言わず、徳を立て恵み深い言葉を話します。信仰と所望と愛の言葉をするようになります。
第四、体の変化です。いつかは体も変化する日が来ます。その日は、イエス様が再臨なさる日です。キリストの中にいる人々はイエス様の再臨の前に死んだ人であり、イエス様再臨の際に生きていた人であり全員体が変化する瞬間を迎えるようになるでしょう。復活の日に変化された体は朽ちない体、光栄の体、強い体、神霊な体、天に属している形像、死なない体になるでしょう。
生物の遺伝子が変形されると新たな特性が表われます。イエスキリストを信じるとこれより甚だしい変化が魂に起ります。新たな被造物になる変化すなわち生まれ変わる変化です。このような変化を受けた人には必然的に伴う変化があります。身分の変化、人生観の変化、考え方と言語習性の変化そして、体の変化です。皆さんは全てこのような変化を経験してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

彼を待つ者は幸いであり

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

サムエル　ベケトが書いた　“高度を待ちながら”という戯曲に見れば二人の旅行客があるしずかな田舎の道そばの木のそばに立って　“高度”を待ちます。 彼らは　“高度”が自分たちを救われると信じるが実は　“高度”が何かも知れなくて漠然と待ちます。時間が経っても彼らの前にくっきり現われることはないです。二人は絶望と所望の間を行き交って無限に“高度”を待つことで話は終わります。 この戯曲のように人は希望を持ってそれなりの何にを待ちながら生きて行くが事実は無意味で虚しいことを待ちながら生きて行くだけです。 これがちょうど神様が分からない人生です。しかし聖徒はそうではないです。 聖徒の待ちは明白で確固不動した対象に対する待ちです。 聖徒の一生は神様を向けた期待と待つことで点綴されます。
聖徒の期待と待ちの対象である神様は人生に自分を啓示なさった神様です。 神様はどんな方ですか? 1) 神様は霊で、永遠です。 2) 神様は聖父、聖子、聖霊の三位が一体です。 3) 神様は全知全能なさって、無所不在なさって、絶対主権者です。4) 神様は聖なる、義であって、真実で、善良で慈しみ深くて、善です。 5) 神様は万有を作った創造主で、イエスキリストを信じる者を救われる救い主であり、世を審判なさる審判主です。 6) 神様は多くの約束を聖書に記録してくださってこれを信じる人々のためにその口約束を成します。 このような知識と信仰を持った人が聖徒です。 聖徒は世の中に属した人が持つことができない期待と待つことで生きて行くようになります。 すべての聖徒が専ら待つのがあります。 その中に代表的なものをいくつ列挙して見ます。

第一、聖徒はイエスキリストがいらっしゃるのを待ちます。

旧約時代に暮した聖徒は世の中へいらっしゃるキリストを待ちました。 神様が予言者を通じて世の中へいらっしゃるキリストに対して何回、多くの形でおっしゃいました。 ペテロの第一の手紙 1 章に記録されるのを　“この救については、あなたがたに対する恵みのことを預言した預言者たちも、たずね求め、かつ、つぶさに調べた。
彼らは、自分たちのうちにいますキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光とを、あらかじめあかしした時、それは、いつの時、どんな場合をさしたのかを、調べたのである。”（ペテロの第一の手紙 1:10,11）としました。
聖書に約束されたとおりイエスキリストが世の中へいらっしゃいました。 イエス様は罪人のためにあがないの死を死のうと世の中へいらっしゃって結局に十字架で釘付けられる事ができなくてはたまらなかったです。 しかし死亡権勢を勝って墓から復活したし彼が復活した事実を 40 日にわたって弟子に見えました。 そんな後に弟子が見るうちに天に昇りなさいました。弟子が詳らかに天を眺めているのに白い服を着た二りの天使が当そばに立って言うのを“「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」”（使徒行伝 1:11）としました。 新約聖書 ヨハネの黙示録,22 章 20 節に復活したイエスキリストが天の宝佐で使徒ヨハネに　“これらのことをあかしするかたが仰せになる、「しかり、わたしはすぐに来る」”　そのおっしゃる時使徒ヨハネが　“アァメン、主イエスよ、きたりませ。”　と肯定的に回答する場面があります。イエスキリストは必ずまたいらっしゃいます。真実の聖徒ならイエスキリストの再臨を切に待ちながら生きて行きます。 こんな待ちは決して恥ずかしさにあわないです。

第二、聖徒は復活の日を待ちます。

イエスキリストの再臨の目的の中に一つが聖徒が復活するのです。 復活に関して記録されたお言葉を探して読んで見れば驚くべきで不思議です。　　“ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。”（コリント人への第一の手紙　15:51-53).
“わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう。
わたしたちは主の言葉によって言うが、生きながらえて主の来臨の時まで残るわたしたちが、眠った人々より先になることは、決してないであろう。すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう”（テサロニケ人への第一の手紙　4 :14～17）そして復活した身がどんな身なのかに関しても啓示されました。 天に属した者の形体、腐らない身、光栄な身、強い身、神霊な身、イエスキリストの光栄な身の形体と一緒に変化されると言いました。

第三、聖徒は新しい天と新しい地そして新しいエルサレム都を待ちます。

聖徒が永遠に住む所はこの地ではないです。人の罪悪と貪欲によって破壊されて汚染したこの地ではないです。 聖書に次のように記録されています。
　“わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。 また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。
先のものが、すでに過ぎ去ったからである」”（ヨハネの黙示録, 21:1～4).　“御使はまた、水晶のように輝いているいのちの水の川をわたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があって、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。のろわるべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝し御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている。夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。”（ヨハネの黙示録, 22:1～5).

第四、聖徒は日常的な生活に神様の助けを待ちながら生きて行きます。

神様は聖徒の日常的な生活にも助けを約束しました。　“恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。”（イザヤ書, 41:10).　“だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか。と”（ヘブル人への手紙, 4 :16）しました。ヤコブの手紙, 4 章 2 節に　“あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。”　と言いました。　祈る人は神様を向けて待ちながら生きて行くようになります。 たくさん手に入れる人は神様の助けを待つのが多くなります。 神様を向けて待つ人は忍耐がなければなりません。
ノアは神様から洪水の審判に対する警告と箱船を予備しなさいという命令を受けました。人々の非難とあざ笑うにもかかわらず、洪水の徴兆がないにもかかわらず彼は 120 年を忍耐しながら待ちました。 ついに洪水になってノアの待ちが正しかったということが証明されました。イエス キリストが天に昇りなさる前に弟子に父の約束した聖霊を待ちなさいと言い付けました。 そのお話をきいた 500 人余りの中エルサレムに行って屋根の部屋に集まって十日間も待ちながら祈った人は 120 人でした。 彼らは皆が聖霊降臨を体験するようになりました。神様に切に求めたが期待したとおりならなくても気落ちしてはいけないです。 神様の考えは私たちの思ったよりもっと偉大です。 神様を期待する聖徒に一番良い時一番良い方法で一番良いことに回答します。　ヘブル人への手紙,10 章に記録されるのを　“神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。”（ ヘブル人への手紙 10:36）としました。 私たちが神様の手助けを待つのにくたびれなくなる一番良い方法があります。 とにかく感謝するのです。 誰でもイエスキリストを信じて生まれかわるようになればその日から以前には持つことができなかった奇妙で新しい期待と待ちの生活が始まります。神様の品性と約束したお言葉に対する知識が多くなるほど期待感と待ちも増加します。

皆さんはイエスキリストの再臨と肉身の復活と新しいエルサレム都に対した期待を持ってその日を待ちながら生きて行きますか? 皆さんは日常的な現実生活で神様の助けを期待して待ちながら生きて行きますか? アーメンで肯定的に回答する聖徒に次のようなお言葉が約束されています　“それゆえ、主は待っていて、あなたがたに恵を施される。それゆえ、主は立ちあがって、あなたがたをあわれまれる。主は公平の神でいらせられる。すべて主を待ち望む者はさいわいである。”（イザヤ書, 30:18)